

令和7年10月入学
広島大学大学院人間社会科学研究科（博士課程前期）
人文社会科学専攻経済学プログラム8月実施入学試験問題

専 門 科 目
経済史・経済学史

令和7年8月22日（金）

自 10時00分

至 11時30分

答案作成上の注意

1. この問題冊子には、あなたが志望している比較経済システム分野の専門科目である経済史・経済学史の問題があります。
2. この問題冊子は、表紙を含み3ページ（表面のみ）です。また、解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚です。
3. 受験番号は、すべての解答用紙の受験番号欄に必ず記入してください。また、解答用紙に氏名を記入してはいけません。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定の箇所に横書きで記入してください。また、問題が選択方式になっている場合は、選択した問題の番号を最初に必ず記入してください。
5. 配付した問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ってください。ただし、解答用紙は持ち出してはいけません。

令和7年10月入学
広島大学大学院人間社会科学研究科（博士課程前期）
人文社会科学専攻経済学プログラム8月実施入学試験

問 題 専 門 科 目 【経済史・経済学史】

経済史を専攻する者は問題1と問題2に、経済学史を専攻する者は問題3と問題4に答えなさい。

問題1

産業革命は、なぜ綿製品の世界的生産地であったインドではなく、イギリスではじまったのか。資料（図1，表1，表2）に言及しつつ，説明しなさい。

著作権保護の観点から，公表していません。

出所：S. Broadberry and B. Gupta, "Cotton Textiles and the Great Divergence: Lancashire, India and Shifting Competitive Advantage, 1600-1850", Discussion Paper No. 5183, Centre for Economic Policy Research, August 2005,より作成。

著作権保護の観点から，公表していません。

出所：Broadberry and Gupta, "Cotton Textiles and the Great Divergence: Lancashire, India and Shifting Competitive Advantage"

出所：Broadberry and Gupta, "Cotton Textiles and the Great Divergence: Lancashire, India and Shifting Competitive Advantage"

令和7年10月入学
広島大学大学院人間社会科学研究科（博士課程前期）
人文社会科学専攻経済学プログラム8月実施入学試験

問 題 **専 門 科 目** **【経済史・経済学史】**

問題2

戦後アメリカ（合衆国）は、ヨーロッパ復興計画（マーシャル・プラン）を発表し、西ヨーロッパ諸国に対し復興援助資金を提供するとともに、ヨーロッパ統合とそのための「共同の機関」の設置を求めた。アメリカがヨーロッパ統合を促した動機を、アメリカの経済的利害に即して説明しなさい。

問題3

T・R・マルサスが、商品の内在的交換価値をその商品の支配労働量で測ることができると説いた理由を説明しなさい。また、そうしたマルサスの支配労働価値説の問題点を挙げなさい。

問題4

「簡単な価値形態」、「拡大された価値形態」、「一般的価値形態」、「貨幣形態」の4つの価値形態の展開をとおして、特殊な商品が貨幣になる過程を論述しなさい。

令和7年10月入学
広島大学大学院人間社会科学研究科（博士課程前期）
人文社会科学専攻経済学プログラム8月実施入学試験

専 門 科 目
経済史・経済学史

『出題の意図』

問題 1

イギリス産業革命の原因をめぐる研究動向を理解したうえで、資料を用いて論理的な説明ができるかを問う課題である。キーワードは、輸入代替、イギリス高賃金経済、労働節約技術である。

問題 2

ヨーロッパ統合史をめぐる研究動向を理解したうえで、アメリカ（合衆国）の戦後国際秩序形成とヨーロッパ統合との関連を理解できているかを問う課題である。キーワードは、ドル不足問題、GATT、西ヨーロッパ国際分業の再建、「二重の封じ込め」である。

問題 3

アダム・スミスの二面的な価値論を、D・リカードとは対照的な方向に発展させた T・R・マルサスの支配労働価値説の理解を問う問題。

解答のポイントは以下の通り。

- ・支配労働量が需要の強度を表わす不変の価値尺度とされたこと。
- ・支配労働量が蓄積力を表わすとされたこと。
- ・マルサスの支配労働価値説について論拠を示しながら論評すること。

問題 4

貨幣は特殊な商品であるとみなす商品貨幣説の論拠を、価値形態の展開を通して論述する問題。

解答のポイントは以下の通り。

- ・相対的価値形態にある商品の価値が等価形態にある商品の使用価値の量によって表現されること。
- ・相対的価値形態と等価形態とが対極的な関係にあること。
- ・直接交換の困難に直面した商品所有者が間接交換を試みること。
- ・商品所有者の行動から必然的に一般的等価物が導かれるわけではないこと。
- ・歴史的諸条件の作用を受けて一般的等価物が与えられることは、商品所有者の行動に抵触せず、むしろ商品所有者の利益になること。